

令和5年5月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和5年5月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

JR 八戸線の八戸-久慈間を走るレストラン列車「TOHOKU EMOTION(東北エモーション)」が、今年10月に運行開始から10周年を迎えるにあたり、「10周年イヤー出発セレモニー」が八戸駅で開催されました。

TOHOKU EMOTIONは、ライブキッチンを中心に本格的なレストラン仕様となっており、沿線の風景を眺めながら食べる地元産の食材を使用したできたての料理や、景色の美しいポイントに差し掛かると、スピードを緩めて走行するなどの演出が人気を集め、これまで往復で計約8万6千人に利用されています。

セレモニー当日は、地元の園児や八戸市のマスコットキャラクター「いかずきんズ」なども駆け付け、八戸駅長の合図で出発する10周年記念列車を旗や手を振って見送り、節目の年をお祝いしました。

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 5月号 レポート

令和5年4月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	八戸駅に「八戸小唄」歌詞パネル 八戸の魅力や見どころ発信
(2)	「ハチカ」導入から1年 住民に浸透 路線バスICカード利用率75%
(3)	「広報はちのへ」フルカラーに 読みやすさ追及、デザインも刷新
(4)	「はっち」来館1000万人 開館から12年2カ月で達成
(5)	姉妹都市フェデラルウェイ市との交流 4年ぶり

## 【産業】

記事	概要
(6)	男鹿の魚 八戸の市場へ ハマ再生の一手
(7)	八戸 4年連続 北東北2位 20年製造品出荷額等
(8)	からあげグランプリ 北日本スーパー総菜部門 ユニバース 最高金賞
(9)	吉田屋 (八戸) 「べんとうグランプリ」駅弁・空弁部門 9年連続金賞
(10)	八戸で八苦フェリー航路開設50年式典

## 【地域】

記事	概要
(11)	八戸・蕪嶋まつり コロナ前と変わらぬ盛況
(12)	南郷ジャズフェス 4年ぶり開催 MALTAさん、類家さん出演
(13)	八戸三社大祭 4年ぶり通常開催決定
(14)	八戸・浜市場みなとと 好きなネタで海鮮丼 新メニュー「のっける丼」
(15)	キッチンカーで南部せんべい 玉川さん夫妻 (八戸在住) 専門店の窯で焼きたて提供
(16)	「飛鳥II」八戸入港 大型客船、コロナ禍後初

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	柁谷さん 文化庁長官表彰祝賀会 南部弁伝承、功績たたえ
(18)	八戸、南部でインカレ アイスホッケー 6年ぶり開催
(19)	八戸 自主上映会の企画続々 映画文化の灯 再び

## 【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>八戸駅に「八戸小唄」歌詞パネル 八戸の魅力や見どころ発信</b></p> <p>八戸圏域版DMO（観光地域づくり推進法人）VISIT（ビジット）はちのへは、八戸駅新幹線改札口正面にある「はちのへ観光案内所」入り口横に「八戸小唄」の歌詞パネルを設置した。同駅新幹線ホームでは令和4年12月から、東北新幹線八戸開業20周年を記念し、発車メロディーに「八戸小唄」が採用されている。観光客や帰省客に対し、歌詞を通して八戸市の魅力や見どころを発信している。</p>
(2)	<p><b>「ハチカ」導入から1年 住民に浸透 路線バスICカード利用率75%</b></p> <p>八戸圏域の路線バスの運賃などを支払う地域連携ICカード「ハチカ」は令和4年2月の導入から1年余が経過した。公営、民営事業者がエリア全体で共同展開する全国初のケースとして、市交通部と「南部バス」を運行する岩手県北自動車を導入。発行枚数は2月末時点で3万4318枚。Suica（スイカ）を含む交通系ICカード利用率は、1月の調査で約75%に上り、キャッシュレス決済が普及している状況がうかがえる。生活に不可欠な公共交通を維持していくためにも、乗降データなどを生かしてバスの利便性を高め、利用者の増加につなげていく。</p>
(3)	<p><b>「広報はちのへ」フルカラーに 読みやすさ追及、デザインも刷新</b></p> <p>八戸市は、「広報はちのへ」について、5月号から、デザインや内容を大幅にリニューアルした。表紙のデザインを一新し、これまでの2色刷りから全ページをフルカラーに変更。左開き、横書きのレイアウトとし、写真やイラストを用いて読みやすさを追及。内容も見直し、市が力を入れる「子どもファースト事業」を紹介する特集や、学校給食のメニューを紹介する連載を設けるなど子育て世代を意識した。</p>
(4)	<p><b>「はっち」来館1000万人 開館から12年2カ月で達成</b></p> <p>八戸市三日町の「はっち」の延べ来館者数が4月16日、1千万人を突破した。市が整備した「はっち」は、2011年2月にオープン。来館者数は19年度まで年間80万～90万人台で推移し、開館から5年4カ月後の16年6月に500万人を達成。20～22年度は新型コロナウイルス禍などで同40万～50万人台にとどまったが、開館から12年2カ月で節目の大台に乗った。今後は、街なかのイベントが通常通り開催できる見通しであることを踏まえ、熊谷市長は「イベントや行事と連携する形でさまざまな企画を立て、中心街のにぎわい創出につなげていきたい」と意欲を示した。</p>
(5)	<p><b>姉妹都市フェデラルウェイ市との交流 4年ぶり</b></p> <p>八戸市の姉妹都市である米国ワシントン州フェデラルウェイ市のジム・フェレル市長ら14人の訪問団が4月27・28日来八し、中断していた交流が4年ぶりに再開された。両市は1993年8月1日に姉妹都市を締結し、経済交流や中高生の相互派遣などの交流を重ねてきたが、新型コロナウイルスの影響で19年の八戸市青少年派遣団の訪問以降、交流が中断していた。訪問団に新型コロナウイルスの感染者が確認されたことで、28日に予定していた交流行事の大半が中止となったが、八戸市主催の夕食会はオンライン中継で行い、締結30周年の節目を祝った。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p><b>男鹿の魚 八戸の市場へ ハマ再生の一手</b></p> <p>秋田県の男鹿半島沖で定置網漁を手がける瑠光水産（同県男鹿市）が今季、八戸港で鮮魚の販売を行う。初めての販売となった4月3日はアジやタイ、ヤリイカなどさまざまな魚種2.5トンを買入から陸路で持ち込み、仲買人からの注目度も高かった。海洋環境の変化などの影響で水揚げ量の減少がみられる中、地元漁船以外から鮮魚を集める今回の取り組みは、水産物の安定につながり関連業者への波及効果も期待できる。関係者は「互いに救世主となる取り組みにしたい」と意気込む。</p>
(7)	<p><b>八戸 4年連続 北東北2位 20年製造品出荷額等</b></p> <p>製造業の事業所から出荷した製品の総額などを示す「製造品出荷額等」について、八戸市の2020年実績は5232億791万円（前年比242億6727万円減）で、北東北エリアで4年連続2位だった。東北では前年と同じ7位、全国で134位（前年141位）だった。業種別では、新型コロナウイルス感染拡大による巣ごもり需要を背景に食料品製造業が増加し、東北地方でもトップを誇る一方、世界経済が停滞した影響で鉄鋼業やパルプ、紙加工品製造業が減少した。</p>
(8)	<p><b>からあげグランプリ 北日本スーパー総菜部門 ユニバース 最高金賞</b></p> <p>日本唐揚協会（東京）が主催する「第14回からあげグランプリ」の北日本スーパー総菜部門で、ユニバース（八戸市）が開発した「八のちから！ユニバのから揚げ〜ふるさとへの贈り物〜」が最高金賞に輝いた。同グランプリは2010年から毎年開催され、同社は4年連続の出場。鶏の胸肉を八戸産の煮干しを使っただけで味付けし、衣に青森県産ブランド米「青天の霹靂」を使用。下味には八戸酒造の「八仙」の酒かすを使うなど地元食材にこだわった。</p>
(9)	<p><b>吉田屋（八戸）「べんとうグランプリ駅弁・空弁部門」9年連続金賞</b></p> <p>八戸市の弁当製造・販売の吉田屋による「函館海宝 煌めくイクラと大玉ほたて弁当」が、国内最大級の食品コンテスト「ファベックス惣菜・べんとうグランプリ2023」の駅弁・空弁部門で、最高賞の金賞を受賞した。受賞した吉田屋の弁当は、北海道産の大きなホタテが特徴でご飯の上にはイクラやカニ、ホタテを敷き詰めた。同社の金賞受賞は9年連続で、吉田広城社長は「ここまで来たら10連覇を目指したい」とさらなる飛躍を誓った。</p>
(10)	<p><b>八戸で八苫フェリー航路開設50年式典</b></p> <p>八戸港と苫小牧港（北海道）を結ぶフェリー航路「シルバーフェリー」を運行する川崎近海汽船（東京）は4月25日、八戸パークホテルで、航路開設50周年記念式典を開いた。式典で挨拶に立った久下豊社長は、「本州と北海道をつなぐ物流の大動脈として、地元の生活を守る公共交通インフラとして、八戸の発展ともに成長してきた」とこれまでの歩みを振り返った。地元の港湾、経済関係者らが節目を祝い、今後、さらに重要性が高まると見込まれる同航路と、物流拠点としての八戸港の発展に期待を寄せた。同社がスポンサー契約を結ぶスキー・ジャンプ女子の高梨沙羅選手も駆けつけ、式典に花を添えた。</p>

【地域】

記事	概要
(1 1)	<p><b>八戸・蕪嶋まつり コロナ前と変わらぬ盛況</b></p> <p>八戸市鮫町の蕪嶋周辺で4月15日・16日、ハマに春の訪れを告げる「蕪嶋まつり」が開かれた。コロナ禍の影響で開催は4年ぶり。恒例の「うみねこ鳴き声コンテスト」など多彩なステージイベントに加え、出店が立ち並び、来場客は久々の祭りの雰囲気を楽しんだ。今回は火災で焼失した蕪嶋神社の再建後初めての開催となり、神社に参詣する人や鳥居の前で記念写真を撮影する人の姿も多かった。</p>
(1 2)	<p><b>南郷ジャズフェス 4年ぶり開催 MALTAさん、類家さん出演</b></p> <p>八戸市のカッコーの森エコーランドで7月29日に開催される「第31回南郷サマージャズフェスティバル2023」の実行委員会は4月15日、日本を代表するサクソ奏者MALTA（マルタ）さん、同市出身のトランペット奏者類家心平さんをはじめとする出演者を発表した。類家さんは、作家などとしても活躍するピアニスト山下洋輔さんとの特別バンドで登場し、ボーカルグループ「ジャミンゼブ」らも熱演する。今回は、南郷地区の夏の風物詩として4年ぶりの開催となり、関係者は「年代を問わず多くの人にジャズを楽しんでほしい」とPRした。</p>
(1 3)	<p><b>八戸三社大祭 4年ぶり通常開催決定</b></p> <p>八戸三社大祭の運営委員会は4月20日、今年の八戸三社大祭（7月31日～8月4日）について、神社行列や山車の合同運行を実施することを決めた。新型コロナウイルスの影響で山車の合同運行を取りやめるなど規模縮小が続いていたが、4年ぶりの通常開催となる。7月31日の前夜祭と8月4日の後夜祭では、市庁前市民広場と中心街で山車を展示。お通りの同1日は籠（おがみ）神社で出発式を行った後、合同運行を実施する。中日の同2日は例祭や夜間山車運行のほか、長者山新羅神社では伝統武芸の加賀美流騎馬打毬。お還りの同3日は合同運行が行われる。</p>
(1 4)	<p><b>八戸・浜市場みなととと好きなネタで海鮮丼 新メニュー「のっける丼」</b></p> <p>八戸みなと漁協が運営する、八戸市湊町の産直施設「浜市場みなととと」の食堂「鮮八」が4月27日、リニューアルオープンした。客自身が店頭で並ぶ鮮魚類の中から好きなネタを選び、自分好みの海鮮丼を作る新メニュー「のっける丼」の提供を始める。酢飯と白米の量を選べるほか、汁物の注文も可能。ネタの価格は1人前200～300円台が多く、同漁協所属の漁業者が持ち込んだ魚や八戸港に水揚げされた新鮮な魚を積極的に扱う予定。</p>
(1 5)	<p><b>キッチンカーで南部せんべい 玉川さん夫妻（八戸在住）専門店の窯で焼きたて提供</b></p> <p>キッチンカーで南部せんべいを製造、販売する「南部名川せんべい たまや」が各地のイベントで好評だ。南部町（旧名川町）出身の玉川隆さんと三戸町出身の聡子さん夫婦が、廃業した専門店の窯を譲り受け、3月から館鼻岸壁朝市で出店を始めた。建設コンサルティングが本業の隆さんが、各地で移動しながら販売できるようにと重量のあるれんが製の窯を運べる特注のキッチンカーを設計。焼き方は、同市南郷の元沢せんべい店で指導を受け習得した。今後は同朝市をメインに周辺地域のイベントなどで出店し、焼き立ての南部せんべいを提供する。</p>

(16)	<p><b>「飛鳥II」八戸入港 大型客船、コロナ禍後初</b></p> <p>大型客船「飛鳥II」（総トン数5万444トン）が4月26日、八戸港に寄港した。客船の入港は2019年9月以来、約3年半ぶり、新型コロナウイルス感染拡大後は初めて。6月に初となる国際クルーズ船を含めて本年度は4回の寄港が予定されており、同港で客船の受け入れが本格化する。今回は、横浜港を発着する「ひたち・みちのく春紀行クルーズ」の6日間の行程で訪れ、八戸は最後の寄港地となった。乗客約130人を乗せた飛鳥IIは、八太郎4号埠頭に着岸。あいにくの雨天となったものの、乗客は八戸市の種差海岸や十和田湖・奥入瀬溪流エリアなどに繰り出し、思い思いに観光を満喫した。</p>
------	---

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p><b>榎谷さん 文化庁長官表彰祝賀会 南部弁伝承、功績たたえ</b></p> <p>令和4年12月に文化庁長官表彰を受けた、八戸市公民館長の榎谷伸夫さんの祝賀会が4月9日開かれ、関係者らが長年にわたり南部弁の保存や伝承に尽力する榎谷さんの功績をたたえた。榎谷さんは「南部昔語り」の実演や指導、ラジオ講座の講師など、幅広い活動を展開。文化庁長官表彰では、こうした取り組みが国の国語施策の振興に多大な貢献をしているとの評価を受けた。</p>
(18)	<p><b>八戸、南部でインカレ アイスホッケー 6年ぶり開催</b></p> <p>日本学生氷上競技連盟の福田弥夫会長（八戸市出身）らは4月10日、八戸市庁に熊谷雄一市長を訪ね、12月に同市と南部町で第96回日本学生氷上競技選手権（インカレ）のアイスホッケー競技男子ファーストディビジョンを開催すると報告した。同競技による2市町でのインカレ開催は2017年以来、6年ぶり8回目となる。20年の第93回大会も八戸などで開催予定だったが、新型コロナウイルスの影響で中止になった。今回は12月25～29日の5日間、フラット八戸とテクニカルアイスパーク八戸、南部町ふくちアイスアリーナの3会場で、32校の大学生が日本一を懸けて熱戦を繰り広げる。</p>
(19)	<p><b>八戸 自主上映会の企画続々 映画文化の灯 再び</b></p> <p>映画館「フォーラム八戸」が閉館後、街に再び映画文化の灯をともし、ミニシアター系の作品を中心に公共施設などを活用した自主上映会が続々と企画されている。主催は市民や飲食店などさまざま、トークや、映画の内容に沿った飲食の提供など作品の魅力も伝える“仕掛け”も用意する。同市三日町の「はっち」で上映されるのは、同市新井田の「たなぶ酒販」が主催する中東のレバノンでワインを製造する人々を描いたドキュメンタリー「戦地で生まれた奇跡のレバノンワイン」という“酒場らしい”作品。劇中に登場するワインを飲みながらの鑑賞も可能にするなど八戸で新たな映画体験が生まれようとしている。</p>

# はちのへ

## ふるさと寄附金のご案内

### 『ふるさと寄附金』で八戸を元気に！

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただきます。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください！



### ふるさと寄附金の3つの魅力

#### ① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

#### ② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

#### ③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

## 八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 番沢 啓司 [主事] 前田 哲 [事務員] 浜井 章代

### 申込み方法

#### 郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



#### インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



### 送付先

#### 八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。